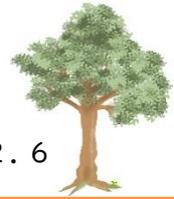




豊小だより

2019.12.6



体力・運動能力調査の結果から見る みのりっ子は？

11月中旬から、急に寒くなってきました。しかし、子供たちは天気がよいと校庭やパワフルホール（南・北校舎の間にある広場）に出て、元気よく鬼ごっこや竹馬、一輪車、サッカーなどをして遊んでいます。現在は大縄跳びの練習が始まり、学級対抗で回数を競う大会に向け、体育館で熱心に練習する姿も見られるようになりました。11月15日には、縄★レンジャー（アクロバティックロープパフォーマンス集団）を講師に迎え、教育振興会主催の教育講演会「なわとび★ジャンプスクール」が開かれました。ダブルタッチの見事な技を披露してもらうだけでなく、学年代表の子供が30秒間で跳べる回数を競うコーナーや短縄跳びを上手く跳ぶコツ（手首を使う）を教してもらうコーナーもありました。体育の授業において縄跳びの学習が始まるに当たり、よい意欲付けとなりました。講師の方は、みのりっ子の縄跳びの能力の高さに驚いていました。

さて、そんなみのりっ子の体力・運動能力は県平均と比較してどうでしょうか。毎年、県内の全小学校（小4年以上）で調査が実施されますが、今年度の結果は以下のとおりです。

	4年男子	4年女子	5年男子	5年女子	6年男子	6年女子
握力	↑ ○	↑ ○		↑ ○	↑ ○	↑
長座体前屈	↑ ○	↑ ○	↑ ○	↑ ○	↑ ○	↑ ○
20mシャトルラン	↑ ○	↑ ○			↑ ○	↑ ○
立ち幅跳び	↑ ○	↑ ○				↑
上体起こし	↑ ○	↑		↑	↑	↑ ○
反復横とび	↑		↑	↑ ○	↑ ○	↑ ○
50m走	↑ ○	↑ ○		○	↑ ○	↑ ○
ボール投げ	↑	↑		↑	↑ ○	

↑：昨年度の記録より向上 ○：県平均を上回っている

4学年、6学年において、ほとんどの種目で昨年度の記録より向上しています。また、体の柔軟性が高く、50m走においても全ての学年で県平均を上回っています。一方、ボール投げにおいては、昨年度より記録は向上しているものの、まだ県平均を下回る結果となっています。



今後は、休み時間などの遊びの中で、めんこなどを使って楽しく投運動ができるよう、取組を継続していきたいと考えています。また、20mシャトルランの結果が県平均を大きく上回っています。これは八幡山マラソンに長年継続して取り組んでいるおかげと考え、今後も伝統的に取り組んでいきたいと思えます。



積極的な外部人材の活用を図った取組を推進しています！

◆中島康晴氏をお招きして（4・5年 道徳）

本校では、将来の夢や目標をもち、その実現に向けて努力しようとする意欲や態度を育てる取組に力を入れています。

その一環として、本県出身の自転車競技（ロード）選手である中島康晴氏をゲストティーチャーに迎え、夢や目標についてのお話を聞いたり、自転車の魅力に触れたりしました。中島氏は、ボランティアで県内14校の小中学校に出向いてお話をしてくださっているそうです。

◆地域の担い手プログラム（6年 総合）

本校6年生の総合的な学習の時間「見たい、聞きたい、広げたい。みのりのプロフェッショナル」の一環として、パラリンピック車椅子マラソン金メダリストの高田稔浩氏、他14名の方を「みのりの宝人」としてお招きしました。当日は、福井青年会議所から派遣されたファシリテーターのもとでインタビューを行い、「仕事に就いたきっかけ」や「仕事の喜び」「仕事を進めるのに大切なこと」など分かったことをレポートにまとめ、グループ同士で発表し合いました。本活動は福井市キャリア教育プログラムの一環として企画・運営している「地域の担い手プログラム」に基づく授業です。インタビューを通して、子供たちは地域の魅力を掘り起こし、自分が住むところに愛着をもったり自分の将来について考えたりすることができました。当日取材に来た新聞記者の方は、15名もの宝人があることに驚いていました。まさに豊地区の自慢できる「宝」ですね。このレポートは、12月15日（日）第2回まちづくりビジョン・ワークショップで披露します。豊公民館にぜひ足をお運びください。6年生のほかにも、3年生の食育に関する紙芝居のDVD放映もあります。

